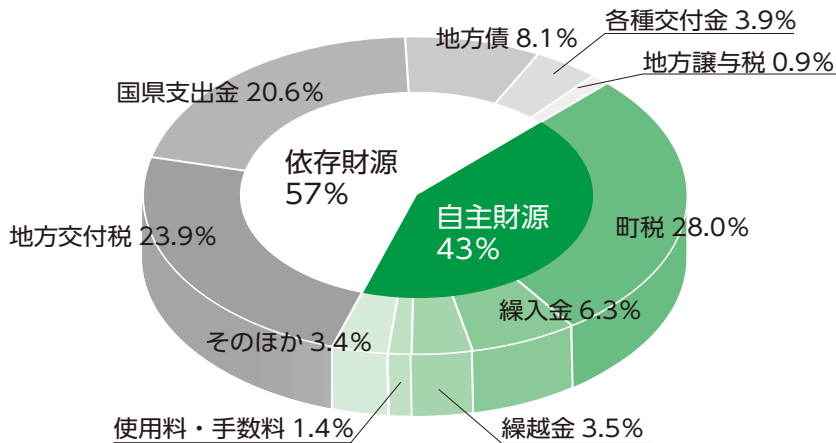
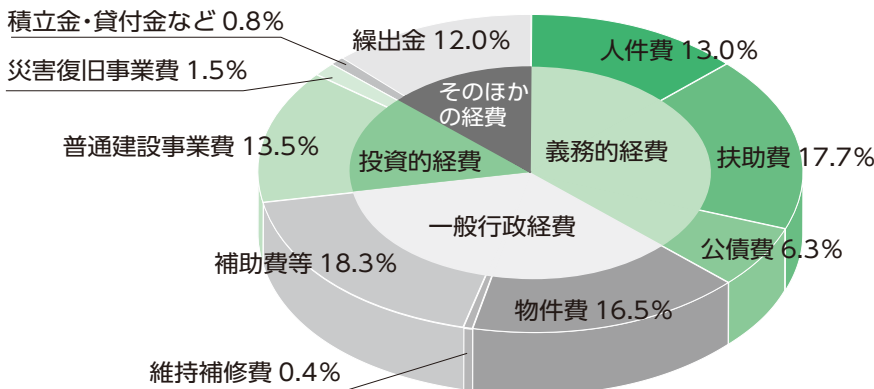


平成 26 年度

決算報告



一般会計 **収入総額 102 億 2,066 万円**



一般会計 **支出総額 98 億 6,099 万円**

平成26年度は「まちの将来の姿が形になる年」として各施策を積極的にを行いました。観光ステーション北斗七星の開館や情報プラザ人の駅の用途変更と指定管理者導入、いこいの里入浴施設へのバイオマスボイラー導入、J R 海老

将来への取り組みの成果が形に

平成26年度の一般会計決算額は、前年度に比べて収入・支出ともに増加。一般会計決算額の収入と支出の差引額から平成27年度に繰り越す必要がある財源の8千385万円を除いた実質収支額は、2億7千582万円の黒字となり、この全額を平成27年度に繰り越しました。

実質収支は 2億7千582万円の黒字

津駅南側道路等整備事業が確実に進んでいることなど、それぞれの取り組みの成果が形になってきました。

健全な財政運営を

平成26年度決算による財政状況は、社会保障などの義務的な経費が増加したことにより、経常収支比率が92.9パーセントと前年度に比べ4.0ポイント上昇するなど、厳しい状況となっています。今後、社会保障関連経費や公共施設の維持更新経費などの増加が見込まれることから、厳しい状況が続くことが考えられます。このため、今後引き続き、自主財源の確保と更なる経常経費の削減の取り組みを進め、健全な財政運営を行ってまいります。

9月の定例議会にて、平成26年度の一般会計と3つの特別会計、2つの公営企業会計の決算が認定されました。その主な内容をお知らせします。

問い合わせ 総務課へ

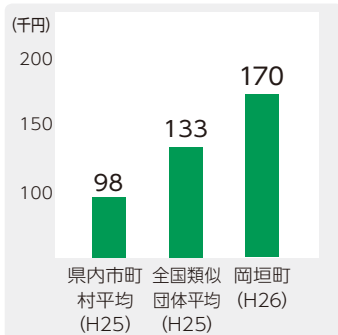
「まちの将来の姿が形になる年」 として取り組んだ1年

基金

残高は 55 億 2,534 万円

公共施設の整備や町債の償還など、将来の支出に備えて、条例で定めた目的のために資金を積み立てたものです。

平成 26 年度末の積立金残高は、前年度と比べて5億 3,602 万円減少しました。しかし、全国類似団体[※]の平均や県内の平均と比べると、多くの基金を積み立てています。



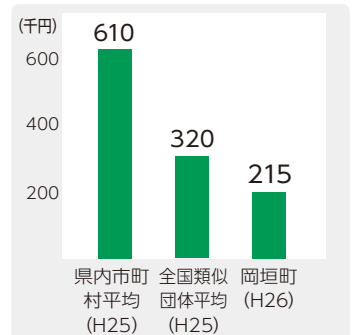
まちの基金・借入金

借入金

残高は 69 億 8,392 万円

施設整備などの事業資金を借り入れて、住民負担の世代間調整をするものと地方交付税の不足分を町が肩代わりして借り入れた臨時財政対策債となります。

平成 26 年度末の借入金残高は、前年度から2億 9,908 万円増加。しかし、全国類似団体の平均や県内の平均と比べても少ない状況です。



郡内4町の財政状況

	経常収支比率①	財政力指数②	実質赤字比率③	連結実質赤字比率④	実質公債費比率⑤	将来負担比率⑥
岡垣町	92.9	0.53	—	—	4.3	—
岡垣町の早期健全化水準 ^{※1}			14.37	19.37	25.0	350.0
岡垣町の財政再生基準 ^{※2}			20.0	30.0	35.0	—
芦屋町	96.9	0.37	—	—	12.5	—
遠賀町	92.7	0.57	—	—	7.5	—
水巻町	91.9	0.51	—	—	5.3	—

※1 この値を超えると、財政破たん寸前といえる値
 ※2 この値を超えると、財政が国の管理下に置かれる値
 ※3 赤字や将来負担に該当がないときは「—」と表示

一町の財政状況は健全ですー

左の表は、町の財政状況を数値化して、国が定めた基準や遠賀郡内の各町と比べています。

岡垣町の財政状況は、財政破たんや国の管理下に置かれる基準値よりも良好な状態にあります。

【用語の解説】

①経常収支比率(%)
 財政状況の余力を示す数値。人件費などの経常的に支出される経費と町税などの経常的に収入される一般財源との比率で、数値が低いほど財政状況に余力があるとされている。岡垣町の比率は前年度より4.0ポイント上昇。
 ②財政力指数
 町の財政力を表す指標。「1」に近いほど財源に余裕があるとされている。

③実質赤字比率(%)

普通会計の赤字から財政運営の深刻度を表す指標。

④連結実質赤字比率(%)
 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度を表す指標。

⑤実質公債費比率(%)

借入金の返済額などの大きさから、資金繰りの危険度を表す指標。

⑥将来負担比率(%)

町が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を表す指標。



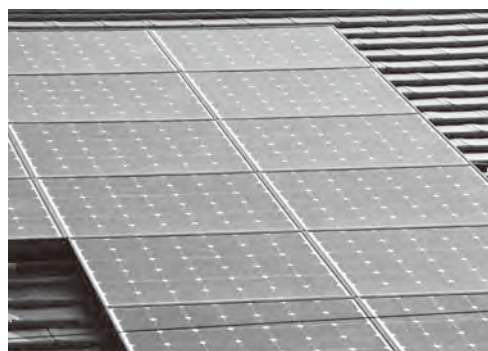
輝き

—自然の恵みを守り活かし輝くまち—

岡垣町観光ステーション 北斗七星の整備

7,281 万円

岡垣町の新たな観光拠点施設として、平成26年7月にオープンしました。この施設を拠点に、観光協会と連携してイベントの実施や町の情報発信、PRを積極的に行っていきます。
※平成26年度の決算額。このほか、平成25年度に2,993万円を支出



地球温暖化の防止対策

634 万円

平成26年度から住宅用太陽光発電設備の設置に対する費用の一部を補助し、新エネルギーの普及・促進を行いました。このほかにも、毎月第2金曜日をノーマイカーデーと設定し、広報紙などで地球温暖化防止の啓発を行いました。

その他の取り組み

■豊かな自然を愛し、環境と共生するまちをつくります

- 森林保全対策 225 万円
- 資源・生ごみ回収奨励など 663 万円
- ウミガメ保護などの自然環境対策 72 万円 など

■地の恵み・地の利を生かした活力ある産業を育てます

- 新規就農者への支援 1,126 万円
- 漁業者の支援 371 万円
- 商工会の支援 2,004 万円
- 観光の PR 2,240 万円 など

主な取り組みを紹介します

第5次総合計画に掲げるキーワードのこと

安全安心

—みんなが安全で安心して暮らせるまち—



定住促進対策

816 万円

子育て世帯や若い夫婦を対象とした住宅取得などの補助金の交付、転入世帯へのウェルカムプレゼントなどの定住促進対策を行いました。また、定住促進PR戦略を策定。全国誌への記事掲載や町公式ホームページに定住促進に関する特設サイトを設けました。



高齢者福祉計画や障害福祉計画の策定

818 万円

高齢者や障害者に時代のニーズにあった支援を行うため「高齢者福祉計画」と「障害福祉計画」を策定しました。この計画を基に高齢者や障害者、誰もが住み慣れた地域で暮らせるよう取り組みを進めます。



JR 海老津駅周辺環境整備プロジェクト

5 億 3,433 万円

発展するまちを目指し、引き続き海老津白谷線道路の整備や JR 海老津駅自由通路の整備を進めました。

平成 28 年度の完成に向け、今後も国の補助制度などを活用して事業を着実に進めていきます。

その他の取り組み

- みんなが安全で快適に暮らせるまちをつくれます
- 道路環境の整備 1 億 2,528 万円
- コミュニティバスの運行など 5,364 万円
- 公園の整備や管理 968 万円
- 町営住宅の維持管理 1,830 万円
- など

- みんなが健やかで安心して暮らせるまちをつくれます
- いこいの里の管理運営 8,943 万円
- 自立支援サービスの実施 4 億 8,078 万円
- がん検診などの実施 2,465 万円
- 臨時福祉給付金の支給 7,703 万円
- 消費生活対策の充実 288 万円
- 防災体制の強化 1,127 万円
- など

心の豊かさ

—地域を愛し、心豊かな人が育つまち—



こども未来館の運営

2,901 万円

こども未来館では、一時保育を継続して実施するとともに子育て支援のネットワークづくりを進めました。また、10周年記念事業として、体操教室などを催し、こども未来館の一層の周知を図りました。

子ども・子育て支援事業計画の策定

143 万円

子ども・子育て支援法に基づき「子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。この計画に基づいて、岡垣町で安心して子どもを産み育てられる環境を整備していきます。



小中学校の施設整備

8,772 万円

山田小学校、吉木小学校の体育館照明のLED化や海老津小学校の校舎改修、岡垣東中学校体育館屋上防水など教育環境の整備を行いました。

その他の取り組み

■子どもたちが安心して学び、心豊かに育つまちをつくります

- 子ども医療費の補助 1億 1,935 万円
- 母子健康づくりの支援 2,616 万円
- 学童保育所の管理運営 3,753 万円
- 子育て世帯臨時特例給付金の支給 3,956 万円 など

■地域に誇りをもち、個性あふれる人材を育てます

- 岡垣サンリーアイの管理運営など 2億 9,639 万円
- 体育施設などの維持・整備など 287 万円
- 公民館講座の実施 392 万円
- 国際交流事業の支援 1,139 万円 など

計画の推進

情報プラザ人の駅の用途変更

3,823 万円



より多くの人の交流・にぎわい創出の場にするため、ブックカフェ機能を追加するための施設整備を行いました。平成 27 年 4 月から指定管理者による運営を開始。また、「Book 座 Café」を併設し、リニューアルオープンしました。

いこいの里入浴施設へのバイオマスボイラー導入

1 億 1,460 万円



いこいの里入浴施設の維持管理にかかる経費を削減するため、木質バイオマスボイラーを整備しました。

その他の取り組み

- 町の PR、広報発行などの情報発信 938 万円
- 自治区や校区コミュニティへの活動支援 2,779 万円 など

特別会計・公営企業会計

町には一般会計のほかに、3つの特別会計と2つの公営企業会計があります。ここでは、それぞれの会計の平成26年度決算額をお知らせします。

特別会計

国民健康保険事業

収入 38億9,428万円

支出 38億6,575万円



国民健康保険に加入している人の保険給付や保健事業のための会計です。主な収入は、加入者が納めた保険税、国や県からの負担金や補助金などです。そのほかに、一般会計からの繰入金2億9,778万円などがあります。主な支出は、保険給付費26億4,482万円、後期高齢者支援金4億3,968万円です。

前年度まで、赤字決算となっていました。保険給付費の減少などで、今年度は黒字決算となりました。

後期高齢者医療事業

収入 5億3,744万円

支出 5億2,363万円

後期高齢者医療制度の保険料の徴収などを行う会計です。主な収入は保険料と一般会計からの繰入金です。主な支出は後期高齢者医療広域連合への納付金となっています。

住宅新築資金等貸付事業

収入 328万円

支出 79万円

主に住宅新築資金の貸付金の回収と起債の償還を行う会計です。



公営企業会計

水道事業

収益的収支

収入 4億8,836万円

支出 5億3,279万円

資本的収支

収入 1億8,240万円

支出 3億8,279万円

皆さんに安定しておいしい水を供給するための会計です。主な収入は水道料金、主な支出は浄水場や配水池の維持管理費です。



※収支金額は税抜き金額。資本的収支の不足額は、公営企業に留保している資金で補っています

下水道事業

収益的収支

収入 9億9,044万円

支出 9億2,791万円

資本的収支

収入 5億469万円

支出 7億7,392万円

快適で文化的な生活を送るための下水道の整備や維持管理を行う会計です。主な収入は、下水道使用料や受益者負担金、国からの補助金、一般会計からの繰入金です。主な支出は下水道の施設工事費、浄化センターの維持管理費です。

